

平成26年度全国保健師長会九州ブロック研修会

開催日：平成26年8月2日（土）10：00～15：30 場所：大分県看護研修会館

平成26年8月2日（土）大分県看護研修会館において、「保健師活動の展望とリーダーの役割」をテーマに開催し、九州各県から総勢151名の参加がありました。

前半は、国際医療福祉大学大学院副大学院長久常節子氏に「健康な社会の創造と保健師活動～リーダーが今、取り組むこと」と題する講演をいただき、先生からは冒頭、「年齢を重ねたからリーダーになれるわけではない」という厳しいご指摘がありました。

専門職は、仕事をとおして成長しなければ力がつかない。従って、忙しい中にも「こなし事業」ではなく、目的・目標を明確にして意図的に事業を企画・実施・評価することが、保健師自身が保健活動を面白いと感じることにつながる。（優先順位を考慮し、一つの事業を深めていくことが大事）そして、結果を可視化していくことで、周囲への波及効果も大きくなるということを講師の実践活動を通して理解を深めることができ、日頃の保健活動を振り返る機会となりました。後半は、「ソーシャルキャピタルの醸成や活用にかかる保健師活動のあり方に関する研究」（全国保健師長会）について分担研究者の福岡県保健医療介護部 馬場順子氏から報告をしていただきました。その後、県・市町村・中核市の立場から保健師活動指針を踏まえての実践報告に移り、まず、熊本県阿蘇保健所の下村登貴子氏から「多職種・多機関連携による糖尿病予防対策の推進」をテーマに外食産業等様々な機関と連携して効果的な事業を展開している報告がありました。佐賀市高齢者福祉課の大坪幸氏からは「認知症になっても安心して住める町づくり」をわかりやすい講座を開催する等工夫して実施している報告が行われました。宮崎市保健所の古市ミドリ氏からは、「地域に根ざした保健活動の強化～ソーシャルキャピタルとの連携」をテーマに、市の保健師活動指針を作成し、活用していきたいとの報告がありました。その後、「保健師活動指針を踏まえた保健師活動の実践～リーダーの役割」をテーマにグループワークを行い、全国保健師長会 鎌田久美子会長から「九州各県からこのように多くの保健師が参集し、交流できたことは大きな成果。地域包括ケアの推進をはじめ、保健師には大きな期待が寄せられている。実践活動を通して一人ひとりが専門性を高め、組織全体の力を発揮しよう」等多くの助言をいただきました。

終わりに、九州ブロック理事（宮崎県）木添茂子氏から次期開催県を代表してご挨拶をいただき、閉会しました。

記：大分県支部長 赤峰真由美 九州ブロック理事 藤本紀代美

久常節子氏

